

2025 年度一般選抜入学試験（A 日程） 公共・倫理

出題の意図

高等学校卒業程度の学力を問う問題である。

問題 1

「公共」の分野における理解を問う問題。

国家や政府の意義についての基本的な理解を踏まえ、そのような国家が直面している現在の複雑な諸問題についての知識を問おうとした。このために、国家や政府の意義について論じた啓蒙思想の代表的な理論の知識があるか、現代の国家が、グローバリズムの進展にともなって直面するようになった問題、国際社会における人種、宗教、政治的理由にもとづく迫害の問題、地球規模の環境問題など、キーワードと関連づけて把握できているか、問うた。

問題 2

「現象」をキーワードにして、古代（プラトン）・近代（経験論・カントとドイツ観念論）・現代（現象学）に関する高等学校卒業程度の学力を幅広く問う問題である。公共・倫理で学ぶ思想家たちの理論は、論争の歴史を経て紡ぎ出されたものでもあるので、そこで問われている事柄がどのように継承されてきたのかという視点で知識を整理することも意識してほしい。この意図を象徴する問題が問 7（フッサールの問題意識をハイデガーがどのように受け継いだのかを問う問題）である。

問題 3

ブッダの思想について基本的な内容を理解しているかを確認するものである。仏教はさまざまに変化しながら現在まで受け継がれてきた。ここではその出発点となるブッダ自身の思想に焦点をあてた。日本においても仏教は身近な宗教のひとつであり、その思想的・文化的影響は大きい。入学後に学びの幅を広げるための基礎として、諸宗教における主要な思想を理解しておいてほしい。